

【実践報告】

教職実践演習授業報告（中・高，栄養教諭部会）

広島文教女子大学人間科学部

グローバルコミュニケーション学科	教授	笹原豊造
人間福祉学科	教授	菅井直也
初等教育学科	教授	徳本達夫子
人間栄養学科	講師	藤井紘子

0 はじめに（教職実践演習の意義など）

教職実践演習は「教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令」により、2010年度以降、教職課程を履修する学生には、「教職に関する科目」の一つとして新設された。「教職実践演習の目的は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認することで、教職課程の「総仕上げ」に位置づけられ、4年次後期に開講される。

授業の根幹は、①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児・児童・生徒理解や学級経営に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項から成っている。授業は双方向の演習形式で、ロールプレイ、事例研究、フィールドワーク、模擬授業等を取り入れなければならない。

学生が自らの履修状況を振り返るために「教職履修カルテ」の作成が義務づけられると同時に、大学側も学生の履修状況を把握し、個々の学生の学びの履歴を確認しなければならない。

以上のことを踏まえて、個々の学生の「教職履修カルテ」を精査し、実施計画を策定した。

1 実施のスケジュール

回	活動内容	回	活動内容
1	教職実践演習の意義についてのガイダンス	2	レポート「私の目指す教師像」
3	広島県教育委員会小舩雅典先生の講演	4	レポート「広島県教委講演について」
5	呉市教育委員会脇原和代先生の講演	6	レポート「呉市教委講演について」
7	道徳授業のガイダンス	8	道徳模擬授業の指導案作成
9	道徳模擬授業の実践（1）	10	道徳模擬授業の実践（2）
11	生徒指導のガイダンス	12	生徒指導模擬授業の指導案作成
13	生徒指導模擬授業の実践	14	学級づくりのガイダンス
15	学級づくり模擬授業の指導案作成	16	学級づくり模擬授業の実践
17	学級通信作成のガイダンス	18	レポート「学級通信について」
19	教科指導のガイダンス（英語・栄養）	20	教科指導模擬授業の指導案作成（英語・栄養）
21	教科指導模擬授業の実践（英語・栄養）	22	ICT教育のガイダンス

23	ICT 機器の操作	24	ICT 機器を利用しての発表
25	まとめ (1) 学習指導要領のガイダンス	26	レポート「学習指導要領について」
27	まとめ (2) 求められる教師像のガイダンス	28	まとめ (3) 教職実践演習のまとめ
29	レポート「教職実践演習を終えて」	30	教職実践演習のまとめ発表

2 活動の概要

1回 教職実践演習の意義についてのガイダンス

これからの教員に求められる資質能力については概ね以下の3点であることを確認した。(1) 教職に対する責任感, 探究力, 教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力, (2) 専門職としての高度な知識・技能, (3) 総合的な人間力である。

2回 レポート「私の目指す教師像」抜粋

『社会の急激な進展に対応できる力を身につけるために大学での学びを大切に, 大学卒業後も学びを継続する意欲を持ち, 豊かな人間性や社会性を高めていきたい。』

3回 広島県教育委員会小舩雅典先生の講演

広島県教育委員会より小舩先生(豊かな心育成課課長補佐兼生徒指導係長)を招聘し, 講演を開催した。生徒指導の3原則として, 「自己決定の場を与えること」, 「自己存在感を与えること」, 「共感的人間関係を育成すること」が重要であると強調されていた。自らの体験に裏打ちされた生徒中心の生徒指導の在り方に対して示唆に富む内容であった。

4回 レポート「広島県教委講演について」抜粋

『小舩先生のお話から, 生徒指導では「未然防止」に取り組むことの重要性を教えていただいた。暴力行為, いじめ, 不登校をなくすには授業がその根幹にある。授業で, 生徒が「自己存在感」を実感できる場を形成することが生徒指導の第一歩である。』

5回 呉市教育委員会脇原和代先生の講演

呉市教育委員会より脇原先生(学校安全課生徒指導アドバイザー)を招聘し, 講演を開催した。義務教育9年間で「社会・世の中に貢献できる力」を生徒たちにつけるために, 教師としていかに行動すべきかについての示唆に富んだ講話であった。組織的な教育活動, 落ち着きのある学習環境づくりの重要性, 組織改革の経験, 困難な状況にある生徒への支援方法などについて, 教員としてまた管理者として具体的な実体験を交えての講話であった。

6回 レポート「呉市教委講演について」抜粋

『新たな「教育県ひろしまの創造」に向けて, 他の教職員と連携・協働し, 組織的な職務を遂行できる能力を求められていることがわかった。学校では, 校長が決定する学校教育目標の達成のために, 教職員が協力して組織的に職務を遂行することが必要であることが理解できた。』

7回 道徳授業のガイダンス

文部科学省の有識者会議「道徳教育の充実に関する懇談会」報告書案が道徳の教科への格上げ提言を行った。担当講では, 「提言」を受けて, 文部科学省『小学校学習指導要領解説道徳』の概要を再確認した。翌週は, 学生が作成した担当する児童生徒(想定)の実態と道徳の内容項目, 主題と資料の概要等を記載した指導案の発表と質疑応答を繰り返した。基本原則の定着度を図ることができた。

8回 道徳模擬授業指導案の作成

ガイダンスの内容を受けて, 道徳模擬授業指導案の作成に取り組んだ。教育実習での経験を参考に, ある架空の学級での道徳上の課題を設定して, 指導案を作成させた。

9回 道徳模擬授業の実践 (1)

学生を2グループに分け, 前半グループが発表した。学生が設定した課題は, 「時間を守る」, 「忘

れ物をしない」,「教室の美化」,「食べ物への感謝」などであった。

10回 道徳模擬授業の実践 (2)

後半グループが発表した。学生が設定した課題は,「いじめをなくす」,「食を通して命を考える」などであった。栄養学科の学生が過半であったので,動物や植物の命を食して,人間の生命が維持されているという視点が強調されていた。

11回 生徒指導のガイダンス

文部科学省『生徒指導提要』の復習を兼ねて,生徒指導の基本を確認した。前週の道徳学習指導案で受講生が想定した児童生徒の実態に,「社会的リテラシー」形成に向けて生徒指導の観点から迫る学習となった。翌週は,学生が作成した担当する児童生徒(想定)の実態を踏まえた生徒指導案についての発表と質疑応答を繰り返した。学習指導と生徒指導の一体化した総合的指導の必要性が理解できた。

12回 生徒指導模擬授業指導案の作成

ガイダンスの内容を受けて,生徒指導模擬授業指導案の作成に取り組んだ。教育実習での経験を参考にして,ある架空の学級での生徒指導上の課題を解決することを想定して,指導案を作成させた。

13回 生徒指導模擬授業の実践

実践例を挙げる。対象は中学生2年生,テーマは「提出物について」である。設定理由は「来年度は受験生となることやその後の高校生活も踏まえ,自主的に提出物を出せるようになるために生徒自身が考える必要がある。」である。展開部では,「現在のクラスの状況把握」,「状況の解決策への取り組み」,「班毎に解決策を発表」,「各班の意見を集約してクラスとしての取り組みを決定」と進行する。まとめとして,クラスが一致団結して課題に取り組む意義について講話を行う。

14回 学級づくりのガイダンス

これまでの学習を踏まえ,学習指導と生徒指導とが一体化された学級担任による総合的指導を学級経営に具体化する基本的視点,学校・家庭・地域との協力連携にも留意しつつ,その応用について確認した。翌週は,学生が作成した担当する児童生徒(想定)の実態を踏まえた学級経営案についての発表と質疑応答を繰り返した。児童生徒の生活実態を知悉することの重要性も確認できた。

15回 学級づくり模擬授業の指導案作成

学級づくりのために,担任教師が最初に取り組む「学級開き」を共通のテーマとして与えた。教育実習での経験を参考にして,自らが担任としてどのようなメッセージ(学級経営方針)を伝えたいかを明確にするようにと指示を与えた。

16回 学級づくり模擬授業の実践

「学級開き」を統一したテーマとして課したので,概ね展開は似通ったものとなった。教師の自己紹介および学級経営方針,生徒は自己紹介および個人目標をワークシートに記入(教室に掲示),学級目標を班毎に話し合い,学級目標の決定という流れである。

17回 学級通信のガイダンス

学級通信は担任および学年と保護者とのコミュニケーションを円滑にする有効な手段である。しかし,学級通信によってトラブルが発生することも否定できない。優れた実践に学ぶと同時に,学級通信を発行する際の留意点について論議した。

18回 レポート「学級通信について」抜粋

『学級通信の意義は,クラスの雰囲気作り,集団作りの導きの糸,クラスの羅針盤,担任からの「ラブレター」,保護者との信頼関係づくりなどである。』

『注意事項としては,通信の対象と目的を明確にすること,内容や表記を工夫,意欲につながる「楽しい通信」になる工夫,否定面や注意ばかりにならないように留意,個人のプライバシーに配慮することなどである。』

19回 教科指導のガイダンス

- (1) 英語－授業を構想する基本的な考え方について討議した。「授業の目標」を明確にする。その目標を達成するために、授業を構成する基本的な要素である「あいさつ」、「ウォームアップ」、「復習」、「導入」、「展開」、「まとめ」の各段階に組み入れる内容を緊密に連携させる。
- (2) 栄養－児童・生徒を対象とした効果的な食育活動を進めるには、活動の計画・実施後に評価を行う必要がある。評価方法に関わる知識の修得を目的として、食育活動に関する文献調査について指導を行った。

20回 教科指導模擬授業の指導案作成

- (1) 英語－英語で授業を行うことを前提に指導案を作成させた。英語で授業を行うためには、教師自身の臨機応変に対応できる英語コミュニケーション能力が必要であることを確認した。
- (2) 栄養－食物アレルギーの事故が発生していることを踏まえ、食に対する意識を高めることなどを留意して取り組んだ。

21回 教科指導模擬授業の実践

- (1) 英語－英語で授業を行うことに慣れていないために進行がスムーズではなかったが、日々実践することにより克服できることを確認した。
- (2) 栄養－各自が関心を持った食育活動に関する文献を抄読し、主に食育活動の評価方法に関する事項についてお互いに発表を行った。また、それぞれの発表についての質疑応答を通して、具体的な評価方法について検討を行った。

22回 ICT 教育のガイダンス

231教室設置の電子黒板（タッチパネルおよびペンソフト）のデモを行い、加えてパワーポイントのアニメーション機能を用いた教材提示方法を紹介。児童生徒を加えた双方向プレゼンテーション可能性の実感を試みた。

23回 ICT 機器の操作

教室に常備されているタブレットを用いて、電子黒板と連動させた。双方向の授業に活用するためには、基礎的な知識の習得とIT機器に対して習熟度を高める必要がある。

24回 ICT 機器を利用しての発表

教室の整備が不十分で事前準備に多大な手間と時間がかかるなど、日常的に使用するには問題点が多い。学生が自由なテーマで発表をさせる予定であったが、今回は見送った。

25回 まとめ (1) 学習指導要領のガイダンス

改正教育基本法の成立（2006年）によって明記された「教育の目標」を具現化する一環として、学習指導要領改正に向けての動向を概略説明した。文部科学省『中学校学習指導要領解説総則』の復習を目指した。

26回 レポート「学習指導要領について」抜粋

『学習指導要領の果たす役割について調査した。全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、学校教育法等に基づき、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準を定めており、これを「学習指導要領」という。』

27回 まとめ (2) 「求められる教師像」のガイダンス

「めざす教師像」を相互にコメントして教師像を練ったのち、ケースワーク用のビネットにより、バイスティック7原則の視点から教師にありがちな言動を点検した。児童生徒や保護者の視点に添う教師のあり方を追体験した。

28回 まとめ (3) 教職実践演習のまとめ

教職実践演習の意義について再確認した。社会からの尊敬・信頼を受ける教員、健全な思考力・判断力・表現力等を育成する実践的指導力を有する教員、困難な課題に同僚と協働して、地域と連携し対応する教員を目指して不断の努力を続けることである。

29回 レポート「教職実践演習を終えて」抜粋

『私が教職実践演習で学んだことは、考え続けることの大切さと、多くの人と話し合い様々な意見を取り入れて作り上げていくことの大きな力です。この授業では、道徳、生活指導、学級づくりなどの指導案を作成しました。その際に、ずっと一人で考えていました。授業を作るには、主題となっているものや教材、発問、授業の流れ、児童・生徒の理解度や実態、反応など様々なことを考える必要がありました。一度考えても、また次に考えるときには別の考えが浮かび、そして先生や学生の皆さんの意見をいただき、自分の中にさらに新しい考えが生まれました。多くの方の意見を取り入れることで、授業が様々な視野から考えられたより深いものになっていくことを感じました。そして、様々な考えに触れることで、自らの今までの考えを振り返り、考え直す機会になっていたと感じています。実際の現場でも、授業は一人で行うことが多いのですが、多くの方が児童・生徒を思いより良い教育をしていくという同じ目標を持ち、協働していると考ええると、心強く感じました。』

30回 レポート「教職実践演習のまとめ」発表抜粋

教職実践演習を終えるにあたり、学生全員に本演習を受けて、最も心に残ったことを発表させた。『私はこの教職実践演習の授業を通して、私自身勉強不足だと痛感しました。生徒に学力を身につけさせるための授業を展開することはもちろんのこと、集団生活での大切なことを教えることや生徒が今後生きていくうえで必要なこと、例えば法やきまりの意義を理解させなければなりません。しかし、それだけのことを十分に教えることができるほどの知識が私には身につけていないと感じました。』

3 反省と課題

本演習は今年度が最初の実施である。率直に言って、試行錯誤しながらの実施であった。実施上の留意事項として、演習中心、クラスの適正規模、履修カルテの活用、役割演技・事例研究・現地調査・模擬授業など導入、現場との連携、現職教員の活用などが挙げられている。

この基準から実施状況を振り返ると、演習内容、クラスの規模、模擬授業など双方向性を意識した演習などは、合格点であろう。しかし、履修カルテの活用、現地調査（学校現場の観察など）、現職教員からの講話（現場の生々しい声など）の点が不足していることは認めざるを得ない。来年度は近隣の中・高等学校に協力を仰ぎ、現場と連携を深めることが望ましい。しかし、すでに現場からは「個別に依頼されても対応に苦慮する。」との声がすでに上がっている。大学側の事情だけで、多忙を極める現場に本演習への協力を依頼することは困難である。近隣大学側代表と教育員会を窓口とした調整の仕組みの整備が急がれる。